

令和3年度第1回旭川市農業センター運営懇話会 会議録（要旨）

日 時 令和3年7月19日（月） 午前10時から午前11時10分まで

場 所 旭川市農業センター ホール

出席者 （参加者）

勝見 義昭氏，北原 一巳氏，鈴木 亮子氏，谷本 守氏，
塚田 則和氏，松本 英和氏，山口 真希氏，山崎 賢治氏，
吉田 友弘氏，吉本 要氏 （五十音順）

（市 側）

細矢農業センター所長ほか農業センター職員5人

会議の公開・非公開の別 公開

傍 聴 者 なし

会議資料 資料1 令和3年度（2021年度）農業センターのあらまし

資料2 令和2年度旭川市農業センター試験成績書（概要版）

資料3 令和3年度旭川市農業センター試験課題等一覧

資料4 今後の農業センターの方向性に係る運営懇話会の意見等に対する考え方

資料5 今後の農業センターの方向性（運営懇話会資料）

議 事

【進行役】

それでは、次第に従い進めていきます。

まずは、(1)令和3年度旭川市農業センターの事業概要について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

（資料1から資料3までに基づき、農業センター所長から概要を説明）

【進行役】

事業の実施に当たり、新型コロナウイルスへの対応はどのように行っていたのでしょうか。

【事務局】

昨年は、緊急事態宣言等もあり農家への対応が思うようにできませんでした。具体的には、農業センターの場内で試験研究を行うこと自体には支障はなかったのですが、試験経過をハウスで見学することや農家からの相談に対して現地を訪問することには、難しい面がありました。そうした中で、試験ハウスの見学会については、事前に予約の上人数を分散して必要最低限の方に来場してもらうような対応をするほか、相談等については電話で行うなど、できる限りの対応に努めていました。また、センターで行う講習会等については、従来の半分くらいの人数に限定し、時間を短縮して実施しました。

【進行役】

園芸参入者フォローアップ強化事業については、対象者が14名ということですが、全て市内に就農先の決まっている人が対象となるのですか。

【事務局】

まだ就農してなくて現に指導農家の下で指導を受けている方のほか、就農して間もなく安定的な営農が難しい方や新たに園芸作物の栽培に取り組むような方が対象となります。

【進行役】

この研修は、7回の講座ということですか。

【事務局】

7回の講座については、農業センターのほ場を用いた研修が4回のほか、外部講師を招いて行う農業機械、農業経営等の講義が3回となります。国の事業で農業次世代人材投資事業の準備型というのがあり、その要件として「生産に関すること」「農業機械に関すること」「農業経営に関すること」「販売流通等に関すること」を研修として受けることが条件となってい

るため、指導農家の下での研修を補完する形で、農業センターにおいて研修を行っています。

【進行役】

対象者は14名ですが、例年2桁の数を維持しているのですか。

【事務局】

14名の内訳としては、それぞれ人は入れ替わっていますが、就農前研修生で昨年度と今年度のいずれも7名、既に就農している方と新たに園芸に参入する方で昨年度と今年度のいずれも7名となっています。

【進行役】

毎年2桁の人数がいることは素晴らしいと思います。

それでは、次に(2)今後の農業センターの方向性について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

(資料4及び資料5に基づき、農業センター所長から概要を説明)

【進行役】

それでは、質疑に移りたいのですが、少し分けて進めたいと思います。

まずは、資料4のとおり意見等に対する考え方が示されましたが、更なる御質問、御意見がありましたらお願いします。

試験の課題については、青果連さんと相談しながら設定しているということですが、この辺の進め方について御発言をお願いします。

【参加者】

試験の計画等々は、春先から計画を立て、各品目の抱えている課題に沿ってどういう試験をしていくのかということを農業センターと打合せをしています。

ただ、シーズン途中であっても急きょ試験に盛り込むこともあり、柔軟に対応していただいていますし、今後も柔軟に対応していただきたいと思っています。

ほ場も限られているので、可能な限りというところではありますが、今、生産者が求めるところは生産性・収量を上げるということで、新しい部分に目がいきがちではありますが、既存の生産者だとか継続的に作付けしているところも重要であり、何とか生産性を上げられるような試験をこれからも打合せしながらやっていきたいと考えています。

【進行役】

ありがとうございます。

農業センターとしてはいかがですか。

【事務局】

技術的なこと、試験研究のテーマについてもそうですが、最近、スピード感がより一層求められるようになってきたというところがあります。品種が突然販売しなくなるとか、新たな栽培方法ができたので一刻も早く試してほしいとか、そうしたお話がありますので、施設に限りはありますが、我々としてもスピードを要するものには、できるだけ対応していきたいと思っています。

【進行役】

課題一覧を見ていると課題数が多くて多岐にわたっていると感じますが、毎年課題は入れ替わるものですか、それとも数年は継続してやっているのでしょうか。

【参加者】

毎年打合せの中で継続性が必要なものか単年なのか様子を見ながら改廃しています。残すばかりだと課題が増える一方なので、役目を終えたものは削っていく方法をとっています。

【進行役】

土壌分析について、更に農家の方の利用を増やして進めていきたいということですが、今の分析している方の比率はどれくらいでしょうか。

【事務局】

分析している方のうち、農家の方と一般の方の比率ということでしょうか。

【進行役】

一般の家庭菜園の分は除いて、農家の方についてということです。

【事務局】

作付けというところでは、全体で1400点ほどで、そのうち700点くらいが水稲関係、野菜・花き等の施設園芸関係で500点くらい、畑作で100点くらい、草地などその他のもので100点くらいです。

基本的には、水稲関係と施設園芸関係が2大主力になっています。

【進行役】

農家の利用率というか農家に対する比率は分かりますか。

【事務局】

おおむね市内の営農に関わる農家は、1,000件から1,200件くらいといわれています。

それを母数にすると、農家の方の利用は、ここ数年は大体200件前後で推移していますので、2割くらいでないかと思込んでいます。

【進行役】

分析できる施設は、ここだけではなく色々なところにありますので、農家の方が選択して別のところで検査していることもあるということですか。

【事務局】

民間を利用している方も少なからずいると思いますが、そこまでの数字は把握できていないのが実情です。

【進行役】

分析してない農家の方も、まだ沢山いるということですか。

【事務局】

細かく把握はできていませんが、巡回等を通じて分析をやってない方もいるという感じはしています。

【進行役】

そこを強化していきたいということですね。

【事務局】

そうです。

【進行役】

農業センターには公園としての機能もあるということなので、市民に対してのサービスも求められているということだと思います。子育て世代とか福祉との連携等も求められているようですが、例えば学校関係との連携はいかがでしょうか。現状と課題、要望等についてお聞かせください。

【参加者】

小学校の学校園がすぐそばにあり、実習で農業センターに指導や支援を受ける関係にあります。時々、その年によっては畑の農産物や農業についてのお話を頂くこともあるように聞いてはいますが、計画的にきちんとした形ではないので、できれば交流だとか指導のような形を充実させていきたいと考えています。

今は、コロナの件やヒグマの件などで、屋外の活動や色々な所に出向いたり逆に来てもらうことが制限されているので、今のところは難しいかと思うのですが、将来的には、隣接地にあるので充実していきたいと考えています。

【進行役】

農業センターとしてはどうですか。

【事務局】

単発的というか、その都度臨機応変というか、学校菜園の関係で職員のやり取りがあります。昨今の状況では、なかなか思うに任せないこともあります。地域の学校と連携した重要な取組だと考えていますので、今後も関係性は続けていきたいと思っています。

【進行役】

今の事態が終われば色々な交流もできるかと思うので、進めていっていただければいいのかなと思います。

次に、資料5の今後の方向性の部分も含めて御意見、御質問等あればお受けします。

この資料を見ると、皆さんから出た意見を受け入れて、「やります」という意思表示をしているように見えるのですが、どんどん仕事が増えていくのではないかと心配してしまうくらいで、財政等の厳しい中でどのように取り組んでいくのか教えていただきたい。

【事務局】

予算的にも人力的にもなかなか増ということは難しい状況にあるのですが、今現在考えている中で重要なものとしては、農業センターの基本ともいえる農業を技術的に支える部分で、そこは引き続きやっていきたいと考えています。ただ、その中で今現在、試験研究に重きをおいてやっていますが、将来、市内の状況として、試験研究よりも新規就農対策に力を入れていかなければならない必要性が出てくることも考えられます。今の段階では、そこまで具体的なイメージは持っていないのですが、当面については、最も求められてる試験研究、分析、新規就農関係の研修について続けていきたいと考えています。都市農村の交流、市民の方の利用をもっと広げていくことについては、予算もありますソフト的な工夫で、例えば、お金のかからない形で情報発信を広めていく手段もあると考えていますので、そのようなことで利用促進を図っていききたいと思います。

【進行役】

30年くらい前は、市町村立の農業関係の試験研究機関がたくさんあり一緒に仕事をさせてもらったのですが、どんどん減っていき、旭川市は一番その機能を残しているような気がします。ほとんど他のところは、試験研究という形を成していないような、少し分析をしたり講座を開いたりのようになっていて、旭川市の農業センターは貴重な存在だと思います。

だからこそ、風当たりが厳しい中、道や国などの様々な試験機関が他にある中で、旭川市としてやっていかななくてはならないというところを打ち出す苦勞みたいなものがあるのだろうと思っているところで、そこは守っていききたいというところなのだと思います。

資料4は、今年のこの会議の中で出た発言ですが、今年に関しても意見をもっと集める予定なのか、あるいは、毎年アンケートを取っているということなののでしょうか。

【事務局】

毎年アンケートを取っているわけではないのですが、行財政改革推進プログラムという重要なものがあり、それにおける農業センターの方向性を模索していく中で、昨年10月に頂いた御意見を反映させて整理したところであり、今回はそのことについて御意見を頂きたいと思っています。

今回御意見を頂いた部分は、農業センターの方向性について生かしていきたいと考えておりますが、今頂いている意見は、大きくはお示した方向性の中に含まれているのではないかと考えておりますので、今年度の運営懇話会においては、方向性についての意見は頂いたものと思っています。

【進行役】

方向性について異論があれば今のうちに申し出ていただきたいのですが、いかがでしょうか。

【参加者】

過去、農業センターの育苗施設で苗の育苗事業をしていたと思いますが、今は全くそのような事業はやっていないと聞いています。昨年から試験をした中に、育苗段階からの試験があり農業センターを利用させていただいています。試験の後、それぞれの生産者が取り組めるようになった場合、播種から均一に育苗しなければならないことや、育苗施設の確保等の壁に当たったときに、時期にもよりますが、農業センターの育苗施設で育苗し、生産者が買い入れる形で作付けができるようにしておかなければならないかというイメージを持っています。

事業として始めてほしいという言い方はまだしませんが、例えば、今現在も何品目か試験が行われており、実際に生産者が取り組むに当たり農業センターに育苗してほしいとなったとき、人件費や施設費がかかってくると思うので、価格設定等を考えていただければと思います。

今の段階では、試験費を農業センターで見っていますが、農業センターでかかる育苗費の軽減を考えるのであれば、育苗費の一部を生産者が負担するようなことも検討していただきたいと思っています。

【進行役】

農業センターとしては、いかがでしょうか。

【事務局】

難しいと認識しています。

【参加者】

そうしたことがかなうなら、試験から本番の生産に広げやすいと考えているので、是非とも検討していただきたいと考えています。

【進行役】

試験研究ではなく、農家の方が生産するものを共同育苗のような形でできないかということですか。

【参加者】

そうです。

【事務局】

御意見として伺うこととさせていただきます。

【進行役】

その他、この機会に何かありませんか。

【事務局】

このような機会なので、できればこの御発言のない方にも一言頂ければと思います。

【参加者】

今回初めて出席したのですが、これからの農業センターの方向性については、今後目標に向けた取組の結果も出てくると思うので、自分も勉強してきたいと思っています。

【参加者】

農業センターのすぐ近くにいる様子を見ながら仕事をしているのですが、コロナの関係で行事が少なくなり寂しいです。コロナが落ち着けば、昔みたいに賑やかになるようにしていただきたい。

また、消防団で農業センターの駐車場を練習に使わせていただいています。消防の大会はこの2年ほどできなくなっているのですが、また使いたいと思いますので、その際はよろしくお願いします。

【参加者】

農業センターとは、園芸センター時代から30年以上のお付き合いとなっています。先ほどの育苗の関係でもお話があったとおり、昔はレタスの苗を育てて組合員に配布し、春先には全道一に生産が伸びたということがありました。市としては、一度止めた事業を改めて行うとなると大変だとは思いますが、新規の野菜にもこのような事業を取り入れてもらいたいと思います。

生産者の方からも新しい品目がないかとの声があり模索している状況ではあるのですが、去年から薬草のトウキや蘇葉について農業センターの協力をお願いしたり、自分自身も山形や宮城に行きそのタラノキの苗をもらって、それを農業センターで育てて組合員に配り、タラの芽を栽培して直売所で販売し良い結果が出ています。また、今年は、タラノキから根を取って広げようとも計画していますし、試験についても今後拡大しながらやっていきたいと思っています。

また、シャインマスカットの栽培については、北海道の北の方では非常に作りづらく無理だといわれていますが、チャレンジの必要性を感じて取り組んでいますし、農協としても協力していきたいと思っています。

新規就農の受入れの関係については、受入農家があって初めて成り立つものでして、今年、市の方から新規就農の受入れができないかという相談があったのですが、受入農家が高齢であ

ったり、お米が中心であったりと受入れできる人がいない状況でした。今後、農業センターと協力連携しながら、受入体制を整えていきたいと思っています。大変、難しい問題だとは思いますが、よろしく願います。

【参加者】

昨年の意見を踏まえてよくまとめられていると思います。

忙しい中ではあると思いますが、土づくりの関係としては、作物は土づくりからですし、農業センターでは指導員を入れて積極的に行っているということですので、農協としても組合員に周知していきたいと思っていますので、今後とも頑張ってくださいと思います。

【参加者】

農業センターには、現場の品種の課題や地域特有の生産上の課題等について相談することも多くありますし、それらを課題として拾い上げて試験に取り組んでいただいているところです。生産者の手の届く試験ということで、現地の方から非常に頼もしいという御意見を頂いています。

新しく行う土づくり事業の巡回では、巡回によって思わぬ問題点などが見付き、その対処として土壌分析を実施する方が増えていくような感じもしています。新たな事業を展開するには人員もかかりますし、試験研究や現場の対応等は多岐にわたってきているので、専門の仕事だけに人員の確保はより一層重要になってくるのではないかと感じています。

【参加者】

農業センターには、色々な形でお世話になっているのですが、今後計画的に行うなど充実していかなければならないと考えています。相談することもあると思いますが、よろしく願います。

【参加者】

地元に住んでいて、農業センターの設立当時から見えています。昔は、雨紛地区全体で野菜栽培の面積がとても多く、その当時に農業センターは建てられたのですが、数十年経って今の現状を見ると、高齢化により野菜づくりの面積は激減していて、地域の人たちが農業センターから離れつつあるように感じています。

試験などは青果連や各農協と連携しながらやっていると思いますが、作付面積が激減しているがゆえに関心が薄れているように感じられます。

ただ、土壌分析は、今現在一番の頼りになっているような気がするので、土壌分析はなくさないように努力していただきたいと思います。

【参加者】

昨年の意見等からの考え方というところでは、このような整理でよろしいかと思っています。

当農協では、最近野菜の関係は間違いなく減ってきています。一方、生産者においては、後継者が戻ってきている現状はあるのですが、米の生産にウエイトがおかれている状況にあります。

農業センターですから園芸の関係がメインだと思いますが、若い方も戻ってきているので米の関係で何かできることはないのかなと思います。旭川米生産流通協議会とも連携しつつ農業センターを発信基地として活用し、旭川米をアピールするイベントなどを行うことも良いのではないかと思います。農政部で相談してもらえれば、各農協も協力することができると思います。

【進行役】

以上をもちまして議事を終了させていただきます。色々な御意見を頂き、御協力ありがとうございました。